

参加申込規定

1. 参加料

(公社)日本プラントメンテナンス協会 (正会員、事業所会員) (一社)日本能率協会 法人会員	154,000円/人(税込) (本体価格140,000円 消費税14,000円)
一般	231,000円/人(税込) (本体価格210,000円 消費税21,000円)

※参加料には、テキスト(資料)代が含まれております
 ※昼食のご提供はございません
 会員ご入会の有無につきましては、下記HPにてご確認ください。
 ・(公社)日本プラントメンテナンス協会HP
<https://www.jipm.or.jp>
 ・(一社)日本能率協会HP
<https://www.jma.or.jp>

会員以外の方は、この機会にぜひ小会会員へのご入会をご検討ください

2. 参加申込方法・参加料支払い方法

- 派遣窓口ご担当者様及び参加者が「参加申込規定」に同意したうえで、小会より申込ください。FAXでのお申し込みはできません。
- 参加申込は開催前日まで受け付けますがテキストなどのご用意ができないこともございますので、お早めにお申し込みください
- 開催約2週間前より派遣窓口ご担当者様あてに請求書を送付しますので、小会指定の銀行口座の振込ください。なお、振込手数料は貴社にてご負担ください

4. 集合型でのご参加について

- 集合型でのご参加は定員制です。定員となりましたらライブ配信にお申し込みください
- 開催の約2週間前より派遣窓口ご担当者様あてにメールする請求書に受付票(会場地図あり)を同封します。受付票は、開催当日にご持参ください
- テキストは、開催当日に配布します

6. お断り・お断り

- 録音、録画、撮影、およびSNSへの投稿は厳禁です。守られなかった場合、著作権、肖像権侵害として対処することがございます。また今後の参加をお断りすることがございます
- 下記の規定によりキャンセル料を申し受けますのであらかじめご了承ください

開催当日～7日前の参加取消し・・・・・・・・参加料全額
 (参加料入金済の場合、返金しません)
 ※いずれも土日曜・祝祭日は、上記日数に含まれません



■問い合わせ先

公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 普及推進部
 TEL: 03-6865-6081
 E-mail: seminar@jipm.or.jp

お申込みは小会HP
 「セミナー・イベント情報」から
<https://info-jipm.jp/>

3. ライブ配信でのご参加について

- ライブ配信は、WEB会議システム「Zoom」を利用します。お申込み前に下記QRコードまたはURL「手順」の接続テストにて視聴できることを必ずご確認ください



<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/115002262083>

- 参加者側のネットワーク環境に伴う視聴の不具合に関して小会ではその責任を負いかねます
- 参加者のメールアドレス宛に参加URLを、テキスト送付先にテキストを開催2日前までに送付いたしますので事前にご確認ください

■免責事項

天災地変や伝染病の流行、研修会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の小会が管理できない事由により研修内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、小会ではその責任を負いかねます。

■個人情報の取り扱いについて

ご記入いただいた個人情報は、当セミナーの運営管理、資料送付、出欠の確認等に利用いたします。また、後日小会より事業・サービス・セミナー等のご案内を送付させていただく場合がございます。小会にご提供いただいた個人情報を小会のプライバシーポリシーに則って安全対策を施し管理いたします。小会のプライバシーポリシー、個人情報の開示・訂正・消去の詳細につきましては小会HPをご覧ください。

お申し込みは小会HPから <https://info-jipm.jp/>

トータルに学ぶ
 5日間コース

2025年度 公開講座

選べる!!
 来場&WEB
 受講

設備高度化を制する保全「司令塔」育成

計画保全士養成コース

設備保全の
 優先度や
 保全計画の立て方
 が分かる

計画的な保全
 と仕組み化を
 学ぶことで
 最適な保全人員
 が分かる

設備保全の
 優先度を
 DX対象選定の
 ヒントに!

会場: JIPM本部研修室(東京都千代田区神田神保町3-3 SFⅢビル 5F)
 JIPM中部研修室(名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センター 21F)
 WEB受講 ※WEB受講は、WEBシステム「Zoom」によるライブ型受講です

単位	地域	日程	単位	地域	日程
第1 単位	東京	2025年5月21日(水) ～5月23日(金)	第2 単位	東京	2025年6月5日(木) ～6月6日(金)
	名古屋	2025年7月2日(水) ～7月4日(金)		名古屋	2025年7月17日(木) ～7月18日(金)
	東京	2025年9月10日(水) ～9月12日(金)		東京	2025年9月25日(木) ～9月26日(金)
	名古屋	2025年11月26日(水) ～11月28日(金)		名古屋	2025年12月11日(木) ～12月12日(金)
	東京	2026年1月14日(水) ～1月16日(金)		東京	2026年2月5日(木) ～2月6日(金)
名古屋	2026年2月25日(水) ～2月27日(金)	名古屋	2026年3月11日(水) ～3月12日(木)		

講座の特徴

- 経営および現場の双方に対して合理性のある保全計画を立案し管理、実行できる能力を身につけます
- 保全/設備部門の監督者が実際に抱える問題を中心に「管理能力」「実務能力」「改善能力」「人材育成能力」をバランスよく学習できるプログラム構成となっています
- 経験豊富な講師陣による講義と演習により、実務で役立つスキルを身につけます

対象の方

- 保全管理者を目指すリーダーの方
- 工務部・保全部門の計画保全技術者



受講者全員に「コース専用テキスト」
 ならびに
 「MOSMS実践ガイド」を贈呈します

★詳細は中面を御覧ください★

お問い合わせは
 こちらまで

TEL 03-6865-6081
 E-Mail seminar@jipm.or.jp

(公社)日本プラントメンテナンス協会
 本部事務所

○ねらい

計画保全士養成コースは「製造現場における計画保全のマネジメントリーダー」の育成を目的としています。

○「計画保全のマネジメントリーダー」とは？

- ① 当該事務所方針に基づく保全の目的・目標を理解し、グループ・担当の中核として貢献する
- ② 専門性や豊富は経験を活かし、自主的に重要な仕事にチャレンジする
- ③ 担当職務についての専門知識、豊富な経験、技術をもとに技術をマネジメントする力を有する
- ④ 中期的取り組みを必要とする重要な問題の解決ができる
- ⑤ 設備管理全体における計画保全の役割を理解し、自主保全を支援できる

○MOSMSとは

MOSMS (Maintenance Optimum Strategic Management System) = 「経営に資する戦略的保全マネジメントシステム」とは、計画主導で進める設備保全の仕組みの構築です。
MOSMSは公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の登録商標です。

○講師

(公社) 日本プラントメンテナンス協会
選任講師

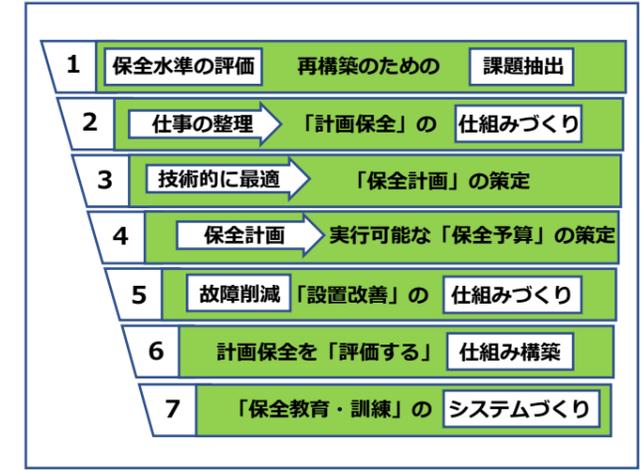
※小会「設備診断技術セミナー」にて
技術教育科目(本セミナー2日目・3日目)のみ
ご受講いただけます

○受講者の声

- 計画保全の重要性、保全本来の業務、計画保全士の役割の説明から、**目指すべき姿がイメージできた**
- **実例などを交えての講義**であったため、非常に勉強になった
- 設備診断技術について、特徴を詳しく講義していただいたことで、**トラブル発生時やメンテナンス時の選択肢が広がった**
- ドライブシステムや制御機器に関する診断技術について具体的な説明があり、**今後の計画立案の予備知識になると感じた**
- 保全の原点に立ち返るの必要性を理解できた。
- **新しい診断方法について理解ができ知識が広がった**

◆ 保全経営力の強化には計画保全システムの再構築が重要です

計画保全システムの再構築



計画保全士養成コースカリキュラム(予定) (第1単位の2日目・3日目は機械保全系・電気保全系のいずれかを事前に選択していただきます)

第1単位 (3日間)			第2単位 (2日間)																																																																				
1日目			2日目・3日目			4日目・5日目																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>科目名</th> <th>講義内容(予定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">共通 (1日間) 10:00 ~ 17:00</td> <td>計画保全士の役割</td> <td>1 設備管理の歴史と保全の管理 2 「計画保全士」の役割</td> </tr> <tr> <td>設備管理概論</td> <td>1 故障物理と故障解析 2 リスクマネジメント 3 FMEAによる保全方式の設定例</td> </tr> </tbody> </table>			単位	科目名	講義内容(予定)	共通 (1日間) 10:00 ~ 17:00	計画保全士の役割	1 設備管理の歴史と保全の管理 2 「計画保全士」の役割	設備管理概論	1 故障物理と故障解析 2 リスクマネジメント 3 FMEAによる保全方式の設定例	<p>技術教育科目(選択制) 機械保全系</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>科目名</th> <th>講義内容(予定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">機械保全系 (2日間) 10:00 ~ 17:00</td> <td>予知保全技術の概要と位置づけ</td> <td>1 「計画保全の流れ」と「設備診断技術の連携」 2 保全方式の設定と機器別管理基準 3 振動法による設備状態監視フロー 4 設備の予知保全技術の要素</td> </tr> <tr> <td>材料の一般的な損傷</td> <td>1 一般的な劣化現象 2 劣化モードと劣化形態、劣化メカニズム 3 腐食への影響因子</td> </tr> <tr> <td>回転機器の機械要素損傷</td> <td>1 転がり軸受の損傷の種類と発生メカニズム 2 すべり軸受の損傷の種類と発生メカニズム 3 歯車の損傷の種類と発生メカニズム</td> </tr> <tr> <td>回転機器の予知保全技術</td> <td>1 回転機器の診断技術 2 振動診断の基準 3 振動傾向管理の活用事例 4 振動診断事例 5 低速回転機械の診断 6 潤滑油診断技術</td> </tr> <tr> <td>静止機器の予知保全技術</td> <td>1 静止機器の劣化診断 2 各種非破壊検査技術の種類と特徴 3 法令に基づく非破壊検査</td> </tr> <tr> <td>高経年化設備への対応</td> <td>1 高経年化設備の状況 2 静止機器高経年化設備への考慮すべき事項 3 高経年化設備に材料劣化と管理 4 高経年化劣化の代表：炭素鋼設備の減肉</td> </tr> </tbody> </table>			単位	科目名	講義内容(予定)	機械保全系 (2日間) 10:00 ~ 17:00	予知保全技術の概要と位置づけ	1 「計画保全の流れ」と「設備診断技術の連携」 2 保全方式の設定と機器別管理基準 3 振動法による設備状態監視フロー 4 設備の予知保全技術の要素	材料の一般的な損傷	1 一般的な劣化現象 2 劣化モードと劣化形態、劣化メカニズム 3 腐食への影響因子	回転機器の機械要素損傷	1 転がり軸受の損傷の種類と発生メカニズム 2 すべり軸受の損傷の種類と発生メカニズム 3 歯車の損傷の種類と発生メカニズム	回転機器の予知保全技術	1 回転機器の診断技術 2 振動診断の基準 3 振動傾向管理の活用事例 4 振動診断事例 5 低速回転機械の診断 6 潤滑油診断技術	静止機器の予知保全技術	1 静止機器の劣化診断 2 各種非破壊検査技術の種類と特徴 3 法令に基づく非破壊検査	高経年化設備への対応	1 高経年化設備の状況 2 静止機器高経年化設備への考慮すべき事項 3 高経年化設備に材料劣化と管理 4 高経年化劣化の代表：炭素鋼設備の減肉	<p>技術教育科目(選択制) 電気保全系</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>科目名</th> <th>講義内容(予定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">電気保全系 (2日間) 10:00 ~ 17:00</td> <td>予知保全技術の概要</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気システムの劣化メカニズムと劣化診断の要素技術</td> <td>1 電気システム構成品の劣化メカニズム 2 絶縁油の劣化診断技術</td> </tr> <tr> <td>受変電設備の予知保全技術</td> <td>1 電気設備の構成機器 2 油入変圧器の予知保全技術 3 モルト変圧器の予知保全技術 4 遮断器の予知保全技術 5 ガス開閉装置(GIS)の予知保全技術 6 避雷器の予知保全技術</td> </tr> <tr> <td>ドライブシステム・回転機の予知保全技術</td> <td>1 ドライブシステムの予知保全技術 2 汎用インバータの予知保全技術 3 加圧回転機の予知保全技術</td> </tr> <tr> <td>電子制御装置の予知保全技術</td> <td>1 電子制御装置の劣化診断技術 2 バッテリーの予知保全技術</td> </tr> <tr> <td>機器別管理基準(例)</td> <td>1 機器別管理基準：油入変圧器(例) 2 機器別管理基準：高圧ケーブル(例) 3 加圧回転機の予知保全技術</td> </tr> <tr> <td>最新の関連技術</td> <td>1 RFID応用技術 2 オンライン診断 3 リモート監視 4 V線応用技術</td> </tr> </tbody> </table>			単位	科目名	講義内容(予定)	電気保全系 (2日間) 10:00 ~ 17:00	予知保全技術の概要		電気システムの劣化メカニズムと劣化診断の要素技術	1 電気システム構成品の劣化メカニズム 2 絶縁油の劣化診断技術	受変電設備の予知保全技術	1 電気設備の構成機器 2 油入変圧器の予知保全技術 3 モルト変圧器の予知保全技術 4 遮断器の予知保全技術 5 ガス開閉装置(GIS)の予知保全技術 6 避雷器の予知保全技術	ドライブシステム・回転機の予知保全技術	1 ドライブシステムの予知保全技術 2 汎用インバータの予知保全技術 3 加圧回転機の予知保全技術	電子制御装置の予知保全技術	1 電子制御装置の劣化診断技術 2 バッテリーの予知保全技術	機器別管理基準(例)	1 機器別管理基準：油入変圧器(例) 2 機器別管理基準：高圧ケーブル(例) 3 加圧回転機の予知保全技術	最新の関連技術	1 RFID応用技術 2 オンライン診断 3 リモート監視 4 V線応用技術	<p>共通(2日間) 10:00 ~ 17:00</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単位</th> <th>科目名</th> <th>講義内容(予定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">共通 (2日間) 10:00 ~ 17:00</td> <td>MOSMSの詳細内容(計画保全のPDCA循環)</td> <td>1 保全計画の策定 (PLAN) ・ 保全計画作成の流れ ・ 保全方式の選定 ・ 予備品管理計画の作成 ・ 設備維持・更新投資計画の策定 ・ 保全予算の策定 ・ 保全評価指標の設定</td> </tr> <tr> <td>2 計画保全の実行 (DO)</td> <td>・ 保全業務の実行管理 ・ 保全業務の実行事例</td> </tr> <tr> <td>3 保全データの解析・分析 (CHECK)</td> <td>・ 保全評価指標の活用方法 ・ 保全データの解析・分析事例 ・ 保全データの報告事例(保全月報・保全白書)</td> </tr> <tr> <td>保全水準評価と保全体制の再構築</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>保全人材の育成</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>保全情報管理システムの構築</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			単位	科目名	講義内容(予定)	共通 (2日間) 10:00 ~ 17:00	MOSMSの詳細内容(計画保全のPDCA循環)	1 保全計画の策定 (PLAN) ・ 保全計画作成の流れ ・ 保全方式の選定 ・ 予備品管理計画の作成 ・ 設備維持・更新投資計画の策定 ・ 保全予算の策定 ・ 保全評価指標の設定	2 計画保全の実行 (DO)	・ 保全業務の実行管理 ・ 保全業務の実行事例	3 保全データの解析・分析 (CHECK)	・ 保全評価指標の活用方法 ・ 保全データの解析・分析事例 ・ 保全データの報告事例(保全月報・保全白書)	保全水準評価と保全体制の再構築			保全人材の育成			保全情報管理システムの構築	
単位	科目名	講義内容(予定)																																																																					
共通 (1日間) 10:00 ~ 17:00	計画保全士の役割	1 設備管理の歴史と保全の管理 2 「計画保全士」の役割																																																																					
	設備管理概論	1 故障物理と故障解析 2 リスクマネジメント 3 FMEAによる保全方式の設定例																																																																					
単位	科目名	講義内容(予定)																																																																					
機械保全系 (2日間) 10:00 ~ 17:00	予知保全技術の概要と位置づけ	1 「計画保全の流れ」と「設備診断技術の連携」 2 保全方式の設定と機器別管理基準 3 振動法による設備状態監視フロー 4 設備の予知保全技術の要素																																																																					
	材料の一般的な損傷	1 一般的な劣化現象 2 劣化モードと劣化形態、劣化メカニズム 3 腐食への影響因子																																																																					
	回転機器の機械要素損傷	1 転がり軸受の損傷の種類と発生メカニズム 2 すべり軸受の損傷の種類と発生メカニズム 3 歯車の損傷の種類と発生メカニズム																																																																					
	回転機器の予知保全技術	1 回転機器の診断技術 2 振動診断の基準 3 振動傾向管理の活用事例 4 振動診断事例 5 低速回転機械の診断 6 潤滑油診断技術																																																																					
	静止機器の予知保全技術	1 静止機器の劣化診断 2 各種非破壊検査技術の種類と特徴 3 法令に基づく非破壊検査																																																																					
高経年化設備への対応	1 高経年化設備の状況 2 静止機器高経年化設備への考慮すべき事項 3 高経年化設備に材料劣化と管理 4 高経年化劣化の代表：炭素鋼設備の減肉																																																																						
単位	科目名	講義内容(予定)																																																																					
電気保全系 (2日間) 10:00 ~ 17:00	予知保全技術の概要																																																																						
	電気システムの劣化メカニズムと劣化診断の要素技術	1 電気システム構成品の劣化メカニズム 2 絶縁油の劣化診断技術																																																																					
	受変電設備の予知保全技術	1 電気設備の構成機器 2 油入変圧器の予知保全技術 3 モルト変圧器の予知保全技術 4 遮断器の予知保全技術 5 ガス開閉装置(GIS)の予知保全技術 6 避雷器の予知保全技術																																																																					
	ドライブシステム・回転機の予知保全技術	1 ドライブシステムの予知保全技術 2 汎用インバータの予知保全技術 3 加圧回転機の予知保全技術																																																																					
	電子制御装置の予知保全技術	1 電子制御装置の劣化診断技術 2 バッテリーの予知保全技術																																																																					
	機器別管理基準(例)	1 機器別管理基準：油入変圧器(例) 2 機器別管理基準：高圧ケーブル(例) 3 加圧回転機の予知保全技術																																																																					
	最新の関連技術	1 RFID応用技術 2 オンライン診断 3 リモート監視 4 V線応用技術																																																																					
単位	科目名	講義内容(予定)																																																																					
共通 (2日間) 10:00 ~ 17:00	MOSMSの詳細内容(計画保全のPDCA循環)	1 保全計画の策定 (PLAN) ・ 保全計画作成の流れ ・ 保全方式の選定 ・ 予備品管理計画の作成 ・ 設備維持・更新投資計画の策定 ・ 保全予算の策定 ・ 保全評価指標の設定																																																																					
	2 計画保全の実行 (DO)	・ 保全業務の実行管理 ・ 保全業務の実行事例																																																																					
	3 保全データの解析・分析 (CHECK)	・ 保全評価指標の活用方法 ・ 保全データの解析・分析事例 ・ 保全データの報告事例(保全月報・保全白書)																																																																					
	保全水準評価と保全体制の再構築																																																																						
	保全人材の育成																																																																						
	保全情報管理システムの構築																																																																						
<p>◇第1単位の2日目・3日目は「機械保全系」「電気保全系」のいずれかを 選択して分かれていただきます ※お一人で同時に受講はできませんのでご注意ください</p>			<p>合流</p>																																																																				

※カリキュラムは一部変更になる場合がございます